

主題：「神の宮である召会（神の永遠のエコノミーの目標）」
の内在的な意義

メッセージ 13

キリストの極めて重要な経験は、神の宮である召会の建造のためである
聖書： I コリント 1:30. 3:11-12 前半. ピリピ 2:17. 3:10. エペソ 3:17-19. 4:16

- I. 神の宮である召会を建造するために、わたしたちはキリストを土台として経験する必要があります—— I コリント 3:11 :
- A. 生ける土台としてのキリストは、召会全体を保持し、支えます—— 11 節。
 - B. キリストが保持し、支えているとき、彼はご自身の神聖な命の要素をわたしたちの中へと分与しています。このようにご自身を命の要素としてわたしたちの存在の中へと分与することは、わたしたちを尊い材料へと造り変えます—— 12 節前半. II コリント 3:18. ゼカリヤ 3:9. 4:10。
 - C. 土台としてのキリストはまた成長します。土台が成長するとき、それは彼の成長をわたしたちの中へと分け与えます——コロサイ 2:19. エペソ 4:15-16。
- II. 神の宮である召会を建造するために、わたしたちはキリストを隅の石として経験する必要があります——使徒 4:11. エペソ 2:20. I ペテロ 2:6 :
- A. 隅の石としてのキリストは、二つの壁を結合させます。一方の壁はユダヤ人信者であり、他方の壁は異邦人信者です——エペソ 3:6。
 - B. ユダヤ人指導者たちは、隅の石としてのキリストを拒絶しました。しかしながら、神にとってこのキリストは尊く、信者たちにとって彼は尊いものです——マタイ 21:42. 使徒 4:11. I ペテロ 2:6-7。
 - C. 隅の石であるキリストの中で、ユダヤ人信者と異邦人信者の両方を含む、建物全体は主の中にある聖なる宮へと成長していきます——エペソ 2:20-21。
- III. 神の宮である召会を建造するために、わたしたちはキリストを頂石として経験する必要があります——ゼカリヤ 4:7. I コリント 15:10 :
- A. 頂石を生み出すとは、建造を完了することです。「恵みあれ、これに恵みあれ」という叫びは、頂石そのものが恵みであることを示しています——ゼカリヤ 4:7。
 - B. 頂石はキリストを予表します。キリストは、わたしたちに対する神からの恵みであり、神の建造のおおいとなります—— I コリント 15:10. ヨハネ 1:16-17。
- IV. 神の宮である召会を建造するために、わたしたちはキリストを平安のささげ物として経験する必要があります——エペソ 2:14 :
- A. 平安のささげ物の実際として、キリストはわたしたちの平安です。彼を通して、また彼の中で、わたしたちは神に対して、また互いに平安を持ちます——レビ 3:1-5. エペソ 2:14-15。
 - B. わたしたちはキリストのからだのために、キリストを平安のささげ物として経験する必要があります—— 14-17 節. 4:3. 6:15. コロサイ 1:20-22. 3:15。

- V. 神の宮である召会を建造するために、わたしたちはキリストを尊い建造の材料として経験する必要があります—— I コリント 3:12前半：
- A. 金、銀、宝石は、三一の神の美德と属性におけるキリストのさまざまな面を表徴します—— 12 節前半。
 - B. わたしたちは、パウロが行なったように、客観的な知識と主観的な経験の両方において、キリストをもって召会を建造しなければなりません——ピリピ 3:7-10。
- VI. 神の宮である召会を建造するために、わたしたちは神からわたしたちに与えられた知恵であるキリストを経験する必要があります—— I コリント 1:30：
- A. 使徒たちによって宣べ伝えられた、十字架に付けられたキリストは神の知恵です—— 24 節、参照、3:18-20、II コリント 1:12、ヤコブ 3:15。
 - B. 神の知恵は隠されてきた奥義であるキリストです。それは、わたしたちに栄光を得させるために、もろもろの時代の前にあらかじめ定められ、意図され、運命づけられたものです—— I コリント 2:6-7、コロサイ 1:26-27。
- VII. 神の宮である召会を建造するために、わたしたちは復活の力におけるキリストを経験する必要があります——ピリピ 3:10-11：
- A. キリストの復活の力は、彼を死人の中から復活させた復活の命です。その霊はキリストの復活とその力の実際です——エペソ 1:19-20、ローマ 8:9-11、I コリント 15:45 後半、1 ヨハネ 5:6。
 - B. 宮、すなわち、キリストのからだの実際のために、わたしたちは絶対的にキリストの復活の命の中にいなければなりません——ヨハネ 11:25。
- VIII. 神の宮である召会を建造するために、わたしたちはキリストの死におけるキリストを経験する必要があります——ピリピ 3:10、雅 4:5-6：
- A. キリストの死の鋳型は、彼が天然の人の命を継続的に死に渡されたことを指しています。それは彼が神の命によって生きるためです——ヨハネ 6:57 前半。
 - B. 神はわたしたちをキリストの死の鋳型に入れられました。日ごとに神はわたしたちを鋳込んで、この死に同形化しつつあります——ローマ 6:3-4、ピリピ 3:10-11。
- IX. 神の宮である召会を建造するために、わたしたちはキリストの愛における彼を経験する必要があります——II コリント 5:14、エペソ 3:17-19、4:16：
- A. キリストの愛はわたしたちに押し迫っています。これは、わたしたちに対するキリストの愛であって、わたしたちのために彼が死なれることを通して、十字架上で現されました——ガラテヤ 2:20、エペソ 5:25。
 - B. わたしたちがキリストの愛の中に根ざし土台づけられるとき、命において成長し、建造されて、知識を超越したキリストの計り知れない愛を知るようになります—— 3:17-19。
 - C. からだはそれ自身を愛、すなわち、キリストにある神の愛の中で建て上げます。それはわたしたちの中にあるキリストの愛となり、それによってわたしたちはキリストとからだの肢体仲間を愛するようになります—— 4:16。

- X. 神の宮である召会を建造するために、わたしたちはキリストを注ぎのささげ物として経験する必要があります——ピリピ 2:17. 創 35:14 :
- A. 注ぎのささげ物は神の満足のために、神の御前の真のぶどう酒として注ぎ出された方であるキリストを予表しています——出 29:40-42。
- B. 注ぎのささげ物は、キリストご自身だけを予表しているのではなく、天のぶどう酒としてのキリストご自身をもって、神の享受と満足、神の建造のために彼とわたしたちが一になって、注ぎ出されるまでにわたしたちを浸透するキリストをも予表しています。